夢童

菅波　茂

4月12日。県洋蘭協会より、第50回「洋蘭展2007春」の販売収益金を、AMDAに有難いご寄付としていただいた。同協会設立50周年記念として、3月に総社市の国民宿舎サンロード吉備路で開催され、100余人の会員が約300点の華やかな洋ランなどを展示した。貴重なご寄付は、現在実施中のソロモン諸島地震・津波緊急支援活動に使用させてもらうことにした。

お越しいただいた同協会の河野新一郎氏、そして会長の池田隆政氏と23年前に亡くなった私の父堅次とは、同協会設立の同志だった。50年前の洋ランは庶民にとっては高嶺の花だった。後に品種改良やバイオテクノロジーによる大量栽培の普及によって、多くの人たちがその美しさを楽しめるようになった。先人たちの苦労があればこそである。

父の趣味は洋ランだった。特に交配による品種改良のためなら平気で徹夜していた。1963年、英国王立園芸協会に登録された「サザナミ」は、父が同属のキンリョウヘンとショウケイを交配して作り出した思い出の新種の洋ランである。日本蘭協会で受賞した花は、小粒であるが従来見られなかった美しいピンクの花色、また強健で初心者にも栽培容易であり、全国の愛蘭家に大いに人気を博した。

父の夢は、幻の「青色の洋蘭」を創りだすことだった。志半ばでこの世を去ったが、父が「未知との遭遇」を楽しんだ「知の探検」は私の血に流れている。災害時や紛争地で不条理に苦しむ被災者のために人道支援活動をする、AMDA多国籍医師団は良きモデルである。限られた時間と情報で実施される救援活動は、まさに「知の探検隊」である。

知の探検隊

今回のソロモン諸島地震・津波の死者は50人以上。津波の再来を恐れて高い場所に避難しているなど、少なくとも1500人は緊急援助が必要とされている。AMDA多国籍医師団を派遣した従来の自然災害に比べれば小規模であるが、第1次調査チームとして、岡山の本部からオーストラリア国籍の調整員とインドネシア支部から医師各1人を派遣している。引き続き、復旧支援活動を展開する予定である。

AMDA多国籍医師団派遣5原則のいずれにも合致しないのに、なぜ救援活動を展開するのか。ソロモン諸島や隣のガダルカナル島などでは第二次世界大戦中に、多数の日本兵や地元の人たちが犠牲者となったからである。私の患者さんに小林元春氏がおられる。17師団歩兵第54連隊がガダルカナル島のジャングルの中を転進した時の苦労と惨めさを、何回も繰り返してしみじみと話してくださった。脳裏に焼き付いて離れない。この救援活動を契機に、何かお役に立ちたいという気持ちが募るばかりである。具体的には、AMDA医療と魂のプログラム（ASMP）の実施による活動拠点を設置したい。

県洋蘭協会は96年度以来、洋蘭展の収益金を毎年寄付してくださっている。父とのご縁を大切にしていただいて感謝のみである。もし、私が同協会にお返しができるとすれば、熱帯地域のジャングルや険しい場所に咲くランの原種を、品種改良の素材として提供することである。AMDAの現在の活動地域では、ミャンマーなどが最適地である。ソロモン諸島などにもすばらしい原種があるかもしれない。ランの自生地の再勉強が必要である。AMDAと県洋蘭協会が、ランの原種を求めて「知の探検隊」を派遣することが、父の夢をかなえることになるかもしれない。

（AMDA代表）